

周南市市民館跡地の利活用に関する調査特別委員会 中間報告

令和6年4月25日

4月19日に周南市市民館跡地の利活用に関する調査特別委員会を開催し、「周南市市民館跡地利活用構想及び文化小ホール基本構想の素案について」、執行部より説明を受けました。市民アンケートや団体ヒアリングなどの結果を基に、今後の方針をお示しいただき、それについて質疑が行われました。

現時点では、改選までに臨時会等の開催がないため、当特別委員会の決定に基づき、委員会で出された意見や質疑の状況について以下をもって中間報告と代えさせていただきます。

【主な質疑・提案】

●駐車場整備について

問 資料の中に、「十分な駐車場の確保」とあるが、どのくらいの台数・階数で考えているか。

答 集約される国の機関の必要台数がまだ示されていない状況であり、また、文化小ホールの席数や規模が決まっていない状況のため、どれくらいの台数が必要か算定できない。また、必要台数に応じて、立体駐車場の階数も分かってくる。できるだけ早い段階でお示ししたい。

問 周辺の交通渋滞も予想されるが、車や人の動線はどのように考えているか。

答 児玉町線側には児玉公園もあるため、交通渋滞についてはしっかりと考えていかないといけない。児玉町線からの出入りも考えられるし、徳山停車場線からも動線を確保するのも一つの考えである。皆様から様々な御意見を頂きながら、最適なところで反映させていきたい。

問 山口銀行の駐車場出口より北側について、児玉町線道路としての機能をなくし、車や人の流れを作ることも検討できるのではないか。

答 児玉町線は、狭く、渋滞もある。子供の往来もあるので、安全面を優先的に考えつつ、児玉公園からの連続性のある土地の利活用も考えて進めていきたい。

問 勤労福祉センターを解体して駐車場を設けるなど、駐車場の分散化を検討してはどうか。

答 駐車場の整備においては、駐車場の分散化という視点を入れて、できるだけ渋滞などのストレスのないようにしていきたい。

●文化小ホールの整備について

問 文化小ホールの座席数や敷地面積は。

答 文化小ホールの複合化施設を整備していくのに必要な面積をまずは確保し、その中で国との調整を図りながら進めていきたい。

問 平場の確保はどのように考えているか。

答 コミュニティスペースなどのスペースが確保できるように検討していきたい。

問 防災についてのお考えはあるか。

答 徳山保健センターが指定避難所となっている、これまでどおり防災機能をしっかりと持たせていきたい。

問 文化小ホールの使用料はどのように考えているか。

答 この施設のコンセプトは、「主役は市民である」ため、市民が利用しやすいような料金を考えていきたい。

問 資料の中に、「周南らしさ」とあるが、具体的にどういったことを考えているか。

答 それぞれの活動団体が、この場で交流を深めていくことで、ほかにはない取組やイベントが生まれる。そうしたことが、周南らしさに結び付いていくのではないかと考えている。

問 周南市出身の偉人を建物の名称につけてはどうか。

答 周南市出身の偉人を称える取組も周南らしさであり、取り入れていければと考えている。

問 市民活動をされる高齢者への配慮についてのお考えは。

答 様々な方に使っていただけるよう、高齢者への配慮という視点も持って取り組みたい。

問 団体ヒアリングでは、多めの座席数を望む意見の割合が多いという結果であるが、利用実態としては、かなり少ないのではないのか。

答 団体ヒアリングの中でも、対象となる団体の皆様から固定席で舞台があるというようなイメージでお話をさせていただいている。そうした利用においての席数を想定して、何席ぐらいというのを御回答いただいたという状況である。

問 音響や照明設備についてどのように考えているか。

答 プロによる興行公演まで、幅広い演目に対応できる本格的なホールを整備していきたいという思いはあるが、今後の基本計画などでまとめていきたい。

●有識者検討会議について

問 3月25日に開催された第1回有識者検討会議はどのような内容だったのか。

答 第1回有識者検討会議では、現状の説明にとどまった。具体的な部分については、次回の有識者検討会議で意見を出し合いたいとのこと。

問 第1回有識者検討会議の中で、団体ヒアリングの結果として、文化小ホールの座席数は「500席未満という方が大多数でした」という発言に違和感を覚えた。結果の分析としては明確に当たらず、先入観を持たれてしまうおそれがあるため、第2回目有識者検討会議で訂正をすべきでないか。

答 あくまで団体ヒアリングの結果であり、誘導するようなものではないということを第2回有識者検討会議の冒頭でしっかりと説明させていただきたい。

問 有識者には、財源などについてもきちんと理解していただき、将来に負担がかからないような知恵も出していただきたい。

答 今後の人口減少や財源も踏まえながら、専門家の皆様のお知恵をお借りしながら、検討していきたい。

問 文化小ホール建設に必要な敷地面積を有識者検討会議で示せないか。

答 複層階や平場での建設など、様々なパターンがあるので、検討する上で、一定の数値的な基準は必要であるため、こういった資料をそろえていくか検討したい。

問 有識者検討会議では、複合化施設の部分もすべて話し合うイメージでよいか。文化小ホールと徳山保健センターそれぞれで検討されていくべきではないか。

答 有識者検討会議においては、まちづくりや建築、児童福祉、子ども支援で活動されている方など各分野の専門家の方をお呼びして御意見を頂いている。文化小ホールがメインとなる機能にはなるが、複合化施設として全体的に検討を進めている。

●会議室について

問 市役所の会議室が不足しているということだが、どのような状況なのか。また、保健センター内に会議室をつくるようになると思うが、利用する際の調整などはどうするのか。

答 会議室が使いたいときに使えないことが多い。また、会議室は、市民利用と職員利用が円滑に行えるようにストレスのない運営を考えていきたい。

●建設費について

問 近隣の類似したホールの建設費は把握されているか。

答 県内における近隣市町の状況を取りまとめているところである。

●市民アンケート・団体ヒアリングについて

問 アンケート結果より、市内施設の現状の課題として幾つか出てきているが、現時点で改善できないのか。

答 課題については、早急に対応できるものについては対応していきたい。

問 回答者の年齢の割合は。また、市民アンケートの回答率が41.5%となっているが、この数値の評価は。

答 10代～70代でバランスよく回答いただいている。

10代：15% 20代：20% 30代：12% 40代：12% 50代：16% 60代：16% 70代：18%

回答率3割というケースが多い中で、ウェブ回答を含めることによって、かなり上がってきた。今後もできるだけ回答率が上がるよう取り組んでいきたい。

問 団体ヒアリングの団体数は。また、座席数についてのアンケートの意図は。

答 主には文化協会に加盟している40団体に対し、団体ヒアリングを行った。各団体が活動されるという視点で御回答いただいた。

問 団体ヒアリングや市民アンケートなどを基に基本計画を作成していくのか。

答 市民の意見、演者や利用者の意見、専門家、議員の意見を取り入れ、市民の皆様にとってよりよい施設となるように進めていきたい。

問 以前署名のあった約1万4,000人くらい的心声を反映するのではなく、市民アンケートや団体ヒアリング、有識者検討会議などの約2,000人の意見で物事が決まっていくのはどうなのか。

答 よりたくさん意見を聞きたいが、市民全員の意見を聞き入れることは現実的に難しいため、これらの方法で意見を収集している。